

広 告

虚空尽、き、衆生尽、き、涅槃尽、きなば、我が願いも尽、きなん

真言宗 聖徳派 心和寺 住職 悠心



倉敷市中島に「心和寺(しんなじ)」と
いう小さなお寺があります。商売繁盛・
開運・交通安全の祈願寺として、地元は
もとより遠方からも参拝客が訪れます。
住職である悠心(ゆうしん)さんは、
離婚や子どもとの別れ、ガン宣告など、
数々の壮絶な苦難を乗り越えて出家
し、僧侶となつた異色の経歴の持ち主。

こうした経験から「苦しむ人に寄り
添いたい」と語る悠心さんにお話を伺いました。

結婚・出産、そして別居

悠心 24歳で結婚し、25歳で長女を出産しました。専業主婦をしながら3人の子どもにも恵まれ暮らしていましたが、35歳の時に別居することになりました。この時、子どもたちは3歳、5歳、10歳。小さい子どもたちを連れ故郷に戻りました。35歳にして人生で初めての挫折を感じ、当時は「理不尽」、「不条理」といった言葉が頭の中を支配していました。

子どもたちとの別れ

悠心 離婚し自営業をはじめ、寝る間を惜しくて働きました。それから5年が経過したころ、ある事情から子どもと離れて暮らすことになってしまいました。離れて暮らす子どもたちが苦労している様子を知らず、手も足も出せずいたたまれない気持ちでいっぱいでした。子供に会うために、往復500キロの道のりを毎月運転して通いました。子どもたちの置かれた環境や気持ちを考えるとたまらなく苦しく、人生でもひとつもつらい経験です。自分の無力さに打ちひしがれました。

高校受験が控えておりましたので、感傷的な気持ちを心の底へ閉じ込め、母として平常心を保つように「女優のように母親役を演じよう」と心に決め、毎日を過ごしていました。

当時を振り返ってみると、リヤカーに3人の子どもを乗せながら、ゆっくりと歩んでいるような日々でしたが、子どもたちがいたからこそ前を向いて歩めていたのです。ですが、理解者であった父が他界し、「諸行無常」を感じました。とてもつらい経験でした。

修行→寺の開山

悠心 寺での修行の日々は決して平坦なものではなく、僧侶への道を諦めそうになつた事も。その後、在家出身の気さくな住職と出会い、僧侶となる資格を得ました。

過去のわたしのように辛い思いをされている方の方になりたい。その一心で蓄えていた資金で心和寺をつくりました。小さな寺ですが、お一人お一人の「心の拠り所」となるよう、「抜苦与樂」で人々に寄り添いたいと考えています。

離婚→無職・父の他界

悠心 6年間の別居を経て離婚、そしてその後、父が突然に他界しました。また、同期に転勤命令により職を失うことになりました。離婚をした数日後には長女の

高校受験が控えておりましたので、感傷的な気持ちを心の底へ閉じ込め、母として平常心を保つように「女優のように母親役を演じよう」と心に決め、毎日を過ごしていました。このことでお寺との縁ができ、瞑想で忙を極めていた頃、ある会社から裏切られ失意を経験しました。その事で自らが背負いこんでいたものの多さに気づき、自身を見つめるために瞑想道場を探すようになりました。このことでお寺との縁ができる、瞑想で仕事も少しずつ拡大し、従業員も増え多忙を極めていた頃、ある会社から裏切られ失意を経験しました。その事で自らが背負いこんでいたものの多さに気づき、自身を見つめるために瞑想道場を探すようになりました。このことでお寺との縁ができる、瞑想で自身を取り戻せる感覚が芽生えました。

ガン宣告→裏切りと出家

悠心 つらいことは立て続けにやつてきました。46歳でガン宣告を受け、切除の手術を受けました。気苦労が多い時期で、「病は氣から」と言いますように、物事の捉え方で病を引き起こしてしまったように感じました。その後は仕事に邁進し、自営で始めた仕事も少しずつ拡大し、従業員も増え多忙を極めていた頃、ある会社から裏切られ失意を経験しました。その事で自らが背負いこんでいたものの多さに気づき、自身を見つめるために瞑想道場を探すようになりました。このことでお寺との縁ができる、瞑想で自身を取り戻せる感覚が芽生えました。

不動護摩供

あらゆる
願い祈願

毎月28日

10:00～瞑想 11:00～護摩祈願
19:00～ビジネスマンの為の瞑想

成田山心和寺 ☎ 086-466-2356

倉敷 成田山心和寺 宗教法人 姫路成田山 倉敷別院

お寺 〒710-0803 倉敷市中島 2355-156

合祀墓 〒710-0013 倉敷市中帶江 312-3

真言宗 心和寺

<http://shinnaji.net/>

検索

